

卷頭言

「国際ソーシャルワークジャーナル」創刊によせて

森恭子（本誌編集委員・AISW 副会長・日本女子大学）

本誌「国際ソーシャルワークジャーナル」は、一般社団法人「国際ソーシャルワーク協会（Association for International Social Work : AISW）」が刊行する初めての学術雑誌です。本協会は、国際的な課題に关心のある福祉関係者らが設立した「国際ソーシャルワーク研究会」がその前身であり、2023年5月に名称を変更し法人化されました。

本協会は「日本国内及びアジア太平洋地域等におけるソーシャルワーク専門職及び当該専門職団体の組織化と機能の強化を目的とし、国際ソーシャルワークの開発支援、国際交流、調査研究、教育研修等を通じて、これらの国々における人権の擁護と福祉の増進に寄与することを目指す」（本協会定款第3条）ことを目的としています。

本協会は設立以来、さまざまな活動を展開し、ウェブ上等で発信してまいりました。このたび、本誌の発刊により、これらの活動成果を整理し、国際ソーシャルワーク領域に関する学術研究と実践活動を発表する場を提供することとなりました。日本のソーシャルワーク学問・実践領域においては、グローバルな課題への関心は必ずしも高くありません。しかし、2018年以降の日本政府の「外国人材の受入れ・共生のための総合的対応策」により、近年、日本に住む外国人の数は急増しています。コンビニや飲食店など日常生活の場面で、一般の日本人の人々にとって、外国人住民と接する機会も増え身近な存在となってきています。他方で、今年（2025年）の東京都議会選挙や参議院選挙では「日本人ファースト」を掲げる排外主義政党が躍進し、外国人が標的にされる差別・偏見、暴力などが危惧されています。翻って、世界情勢をみれば、地域紛争は増加し長引く傾向にあり、ロシアのウクライナ軍事侵攻（2022年）イスラエル・ガザ戦争（2023年）など大規模な戦争も勃発するなど国家間の緊張も高まっています。紛争や極度の貧困により大量の難民が発生し、各国の難民受け入れ能力は限界に達しつつあり、世界中で移民・難民への排斥運動が拡大し、極右勢力が台頭しています。

国内外で暴力や分断が深刻化する中、ソーシャルワークに従事する人々は国際的な視野をもち、ソーシャルワークの実践、研究、教育において国境を越えた協働が求められています。本誌が、地球規模の課題に取り組む研究者、教育者、実務家の間で情報や意見を交換するプラットフォームとなり、国際ソーシャルワーク研究の裾野を広げ、その発展に貢献することを願っています。